

尾島図書館だより 8月号

No.273 2026 8. 1

第175回 芥川賞・直木賞受賞作決定

芥川賞

小砂川 チト

「ゾンビ回収婦」 講談社



プロフィール 1990年岩手県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業、同大学院社会学研究科心理学専攻修了。2022年「家庭用安心坑夫」で第65回群像新人文学賞を受賞、第167回芥川賞候補となり、2024年「猿の戴冠式」も第170回芥川賞候補、単行本化され「猿の戴冠式」は第37回三島由紀夫賞候補、第46回野間文芸新人賞候補となる。

あらすじ…この世界の秘密をあなたに教えたい。AI に浸食された世界で、夫とともに職を失った主人公の前にもう一つの現実があらわれた。ホテルのたったひとりの掃除婦。殺されたゾンビの骸(むくろ)を拾い集めて、世界を美しく保つ。三十余年良い子で大人になった主人公は、これまでと変わらずひたむきに役割をこなしていく。

直木賞

浅倉 かすみ

「けんぐわい」 光文社



プロフィール 1960年、北海道生まれ。2003年「コマドリさんのこと」で第37回北海道新聞文学賞、2004年「肝、焼ける」で小説現代新人賞を受賞。2005年「肝、焼ける」単行本デビュー。

2009年「田村はまだか」で吉川英治文学新人賞を受賞。著書に「てらさふ」「満潮」「ぼくは朝日」「平場の月」ほか多数。

あらすじ… 賢いが酷い痘痕(あばた)の姉のふゆ、のぼせ癖できりょうよしの妹りよ。幼くして父を亡くし、ふゆは手習師匠の手伝い、りよは船宿の下女奉公に出された。師匠の養子の宗三郎によりふゆは妊娠するが、神と崇められる女医と出会い、彼女の人生は大きく変わっていく。自我に目覚めた主人公が、生と向き合う、新しい時代小説。

8月21日献血の日

献血とは、自分の血液を医療目的で他者に提供することです。血液は長期保存ができず、人工的に作れないため、常に新しい血液が必要です。病気や怪我で輸血が必要な人のために、健康な人が自発的に血液を提供するボランティアです。

献血時には、血液検査が無料で受けられ、血液中の異常値を把握できるため、健康状態の確認にもなります。

献血は社会貢献だけでなく、自身にもメリットがあります。



献血記念日

タイトル	請求記号	著者名、出版社
血管アップデート術	4 9 8	栗原 毅 / 日東書院本社
流通する「人体」	4 9 0	香西 豊子/勁草書房
タマネギ糖尿病、高血圧を撃退する最強の活用 book	4 9 8	ブティック社
病は「血」から	4 9 1	溝口 秀昭/講談社
血液検査の知識	4 9 2	宮地 勇人/東海大学出版会
体に効く！酢をおいしくたっぷり食べるレシピ	S 4 9 8	落合 敏/成美堂出版
お医者さんが薦めるおいしい減塩レシピ	4 9 3	大塚 亮/三空出版
血液をサラサラにして健康になる本	S 4 9 8	高田 明和/ナツメ社
採血ってなあに？	E サ	村田友梨/みらいハプリッシング
けんけつのはなし	E ケ	中川ひろたか/学研プラス

8月の休館日

3. 10. 14. 15. 17. 24. 28. 31